



適性検査に関する分析から

中部学院大学・中部学院大学短期大学部 IR推進センター

同一人物の適性検査結果に関する分析

要約

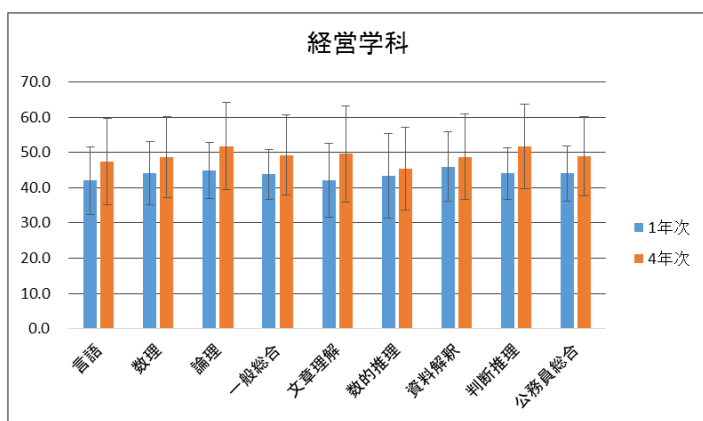
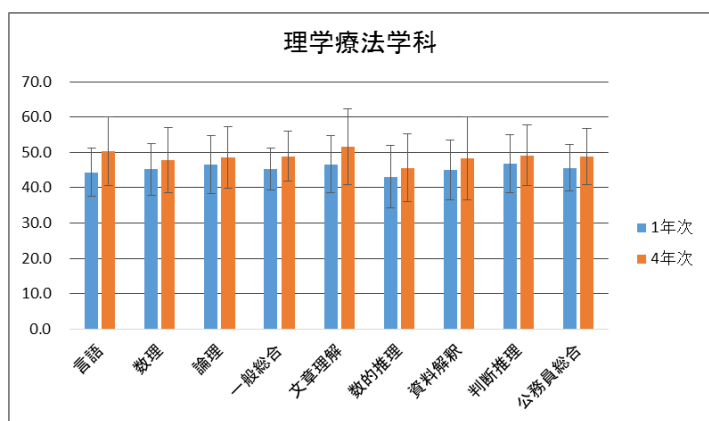
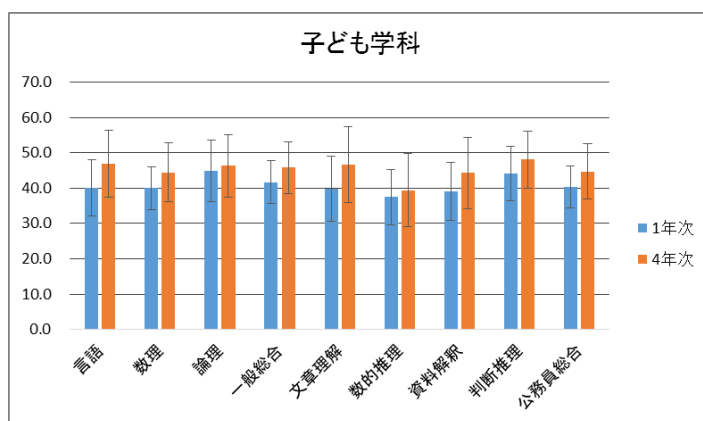
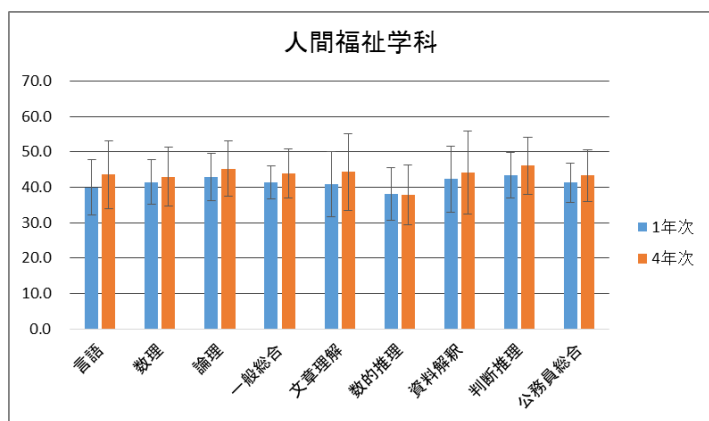
2015年度4年生の適性検査の結果を、入学時（1年生）の結果と比較。ほとんどの学部・学科で**4年生時の得点**が入学時の得点を**上回る結果**であった。またその差分において、**統計的に有意差**が認められる項目数は理学療法学科（8項目）、子ども学科・経営学科（7項目）、人間福祉学科（5項目）であったことから、学生の**能力向上に大学の学習環境が寄与**したことが伺える。

適性検査の概要

今回の適性検査では、基礎能力における思考特性（文章読解、語い力、数的推理、資料解釈、空間把握、論理）と作業特性（速度、正確度）を測定。これらの結果は、一般企業の採用試験時に問われる項目（言語、数理、論理、一般総合）や公務員試験での一般知能分野（文章理解、数的推理、資料解釈、判断推理、公務員総合）の得点として算出され、これを分析対象とした。

分析の概要

2015年度4年生の適性検査の結果を1年生時（入学時）の検査結果と比較。



結果

1年次と4年次で有意差が認められた項目数は、理学療法学科で8項目、子ども学科、経営学科では7項目、人間福祉学科で5項目であった。

※項目の内訳は右図参照。有意差が認められた項目を○で表記。
t検定（両側、有意水準5%）による。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
項目	言語	数理	論理	一般総合	文章理解	数的推理	資料解釈	判断推理	公務員総合
人間福祉	○	-	-	○	○	-	-	○	○
子ども	○	○	-	○	○	-	○	○	○
理学療法	○	○	-	○	○	○	○	○	○
経営	○	○	○	○	○	-	-	○	○

